



久しぶりの強い北風に水面のカルガモが揺られていました。食事中であったのか、余水吐きの辺りに固まっていました。昨日に比べると、最高気温は2度ほど低くなったとはいえ、歩いていると汗が噴き出してきました。とは言っても、夏の名残のキリギリスの鳴き声は小さくなり、コオロギの仲間の声があちらこちらから聞こえています。



**イヌタデ**  
赤い実を赤飯に見立て「赤まんま」とも呼ばれます。矢印の先に咲いている花があります。実は赤い花被に包まれていて、押しつぶすと左のような黒い種が顔を出します。



**ヤナギタデ**  
池沿いに水の中に茎を伸ばしているヤナギタデを見つけました。こちらは水湿地を好みます。まだ蕾は小さかったのですが次回の観察会の頃に花を見ることができそうです。



**メリケンムグラ**  
道端でよく見られました。名前の通り北アメリカ原産の植物で、地面をマット状に被っています。筒状の花びらには短い毛が生えています。実は水に浮いて広がっていきます。



前向き



横向き



前向き



横向き

左：ショウリョウバッタモドキと  
右：ショウリョウバッタ

前向きはショウリョウバッタモドキよりショウリョウバッタの方が細長く感じます。横向きは直線的なモドキに比べショウリョウバッタは下ぶくれに見えます。



ショウリョウバッタモドキ



ショウリョウバッタ

ショウリョウバッタモドキはイネ科の密な草原に、ショウリョウバッタはイネ科の明るい草原に生息しています。



**アカサシガメ幼虫** 体長10<sup>ミ</sup>リ。口が太く他の昆虫を捕まえる肉食性のカメムシです。



**ルリタテハ**

翅を開じると左のように目立たなくなりますが、広げると鮮やかな青い筋が見られます。樹液に集まります。幼虫の食草はサルトリイバラなどです。



**キマダラセセリ**

食草はススキやネザサなど。成虫は蜜腐熟した果物にも来ます。太めの体に似合わず、素早く飛びます。



**ナカムラオニグモ**

卵のうを作っているかと思いきや、通常の住居だそうです。驚かせてしまったので外に出てしまいました。



**キクバナイグチ**

胞子が飛び去った後の茸。イグチの仲間、生きている樹木と共生関係にあります。

**植物** ハルシャギク、ツクサ、キバナコスモス、アレチヌスビトハギ、オオニシキソウ、ワレモコウ、オオバコ、イヌタデ、ヤナギタデ葉を味見、ヘクソカズラ、ヒメジョオン、メリケンムグラ、イシミカワ、ヒルガオ、マメアサガオ、クズ、メドハギ、ヘビイチゴ、イヌコウジュ、ヒメクグ、テンツキ、ヤマイ、ヒヨドリバナ、キンエノコロ、エノコログサ、タチスズメノヒエ、アレチウリ蕾、ノシバ、キンシバイ、イタドリ、モミジアオイ、ハギ、ツツジ、イロハカエデ実、イソノキ実、ヤマハゼ実、シラカシ実、サクラ落葉、アオツヅラフジ実、ヘクソカズラ実、イシミカワ・ナンキンハゼ紅葉始まり、オニグルミ2 **昆虫** キタキチョウ、キアゲハ、サトキマダラヒカゲ、ヒカゲチョウ、ルリタテハ、ヒメウラナミジャノメ、ムラサキシジミ、ショウリヨウバツタモドキ、クルマバツタ、トノサマバツタ、ショウリヨウバツタ、コバネイナゴ、マダラバツタ、ハラヒシバツタ、ツチイナゴ、ホシササキリ、鳴き声(ツクツクボウシ、キリギリス、エンマコオロギ、ハラオカメコオロギ、ツツレサセコオロギ、アオマツムシ、カネタタキ他)、アカサシガメ幼虫、ヒゲナガカメムシ、マルシラホシカメムシ、コアオハナムグリ、ウリハムシ、シオカラトンボ、マユタテアカネ、ウスバキトンボ、キイロスズメバチ、アシナガバチ類、タイワンタケクマバチ、トックリバチの一種、ハグロハバチ幼虫、**クモ** ジョロウグモ幼体、アシナガグモ、ウロコアシナガグモ、ナカムラオニグモと住居、クリチャササグモ、ナガコガネグモと卵のう、チュウガタシロカネグモ、コクサグモ、**鳥・その他** スズメ、ハシブトガラス、コゲラ声、モズ声、カウウ、タカ類の風切り羽1、トカゲ幼体、マダラバツタのエントモファググリリ(糸状菌の一種)、茸(キクバナイグチ、ウスキモリノカサ)**次回は10月10日(木)、午前9時30分~12時、水資源機構P前集合、参加費100円**